

ヤマトグループ賛助会員向けニュース 発行部数12万部

# ヤマト福祉財団

Yamato Welfare  
Foundation  
2005 Winter

No.5

# NEWS



## 第5回 ヤマト福祉財団賞特集





# 第五回 ヤマト福祉財団賞 贈呈式

主催 財団法人ヤマト福祉財団



今回は、障がい者福祉の先駆けとなられたお二人に、  
財団賞特別賞をお贈りしました！

# 財団賞贈呈式、受賞祝賀会を開催



第5回ヤマト福祉財団賞の贈呈式並びに受賞祝賀会は、障がい者週間にあわせて、2004年12月10日、東京・丸の内日本工業倶楽部で開催されました。別掲の4名の方々が受賞者となりましたが、式は、有富慶二ヤマト運輸株式会社代表取締役会長の開会の挨拶に始まり、体調を崩して欠席の小倉理事長の声によるメッセージが伝えられました。選考委員からの講評、賞の贈呈(有富会長が代行)、受賞された方々のご紹介、受賞された方々のご挨拶と続き、ご来賓の方々からもご祝辞をいただきました。祝賀会では、山崎篤ヤマト運輸株式会社代表取締役社長が「障がい者によるクロネコメール便配達の全国展開構想」を表明、会場から大きな拍手が巻き起こりました。ジャーナリストの櫻井よしこさんから「不公平な競争を強いる日本郵政公社と戦うヤマト運輸へのサポーター宣言と、ヤマト福祉財団、ヤマト運輸にはこれからも障がい者のためにがんばってもらいたい」という激励の言葉をいただきました。俳人としても著名な花田春兆 日本障害者協議会副代表から、俳句を書いた色紙が受賞された方々にプレゼントされました。



松村茂利さん、小島靖子スワンベーカーリー十条店長、依田晶男 内閣府参事官(障害者施策担当)

田中 皓 損保ジャパン記念財団 専務理事、富沢泰夫 損保ジャパン記念財団 事務局長、河端静子 日本障害者協会 代表

彫刻家の雨宮淳さん(財団賞正賞ブロンズ像「愛」製作者) 藤井克徳 きょうざれん 常務理事





開会挨拶 有富慶二 ヤマト運輸株式会社代表取締役会長



天野貴彦さんに第5回「ヤマト福祉財団賞」を贈呈



松村茂利さんに第5回「ヤマト福祉財団賞」を贈呈



来賓祝辞 山崎篤 ヤマト運輸株式会社代表取締役社長



秋元波留夫先生に「ヤマト福祉財団賞特別賞」を贈呈



調一興さんに「ヤマト福祉財団賞特別賞」を贈呈



来賓祝辞 左から、坂本由紀子参議院議員、塩田幸雄 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部部長、依田晶男 内閣府参事官(障害者施策担当)、ジャーナリスト櫻井よしこさん、選考委員講師 渡辺修 財団法人 休暇村協会 理事長、乾杯 青木大祐 安田倉庫株式会社相談役、中締め 越川利勝 ヤマト運輸労働組合中央執行委員長

## ヤマト福祉財団賞とは

障がい者の自立支援に著しく貢献した人を毎年2名選んで、ヤマト福祉財団賞を贈呈しています。授産施設、共同作業所など障がい者就労施設や、民間企業で、就労機会を増やしている人、給与など労働条件の改善に貢献している人、仕事を教え障がい者を一人前の職業人に育て上げた人などを、障がい者福祉関係者から推薦していただきます。財団内に設置した選考委員会において厳正に審査決定。受賞された方々には、正賞としてブロンズ像「愛」(雨宮淳氏作)、副賞として賞金100万円が贈られます。

## 今回の選考経過について

2004年7月1日～9月30日の3ヶ月間を公募期間として、全国の施設に直接呼びかけ、マスコミを通じて全国の福祉関係者にも候補者の推薦を要請、また全国の各種障害者団体にも協力いただきました。選考委員会は11月15日、ヤマト運輸本社会議室において開催され、候補者26名の中から、井上成第1もみじ作業所所長、崎村弥生 ひまわりの会施設長、松村茂利 大阪うどん「つくし」店長、天野貴彦 町田市障がい者就労・生活支援センターらむセンター長の4名に絞りました。いずれの方も甲乙つけがたく、小倉昌男理事長に最終決定を二任、天野貴彦さん、松村茂利さんに決まりました。

今回はさらに財団賞特別賞をもうけ、日本の障がい者福祉になくはない大きな功績を上げられ、先駆けとなられた秋元波留夫先生、調一興さんを顕彰することが理事長から提案され、選考委員会で了承されました。



花田春兆 日本障害者協議会副代表、秋元波留夫先生



有富慶二 ヤマト運輸株式会社代表取締役会長、今野由梨 ダイアル・サービス株式会社 代表取締役社長、山崎篤 ヤマト運輸株式会社代表取締役社長



秋元波留夫先生、ジャーナリスト櫻井よしこさん



## 第5回ヤマト福祉財団賞 受賞された方々



推薦者 小川 久江さん  
町田市障害児者を守る会

**推薦理由**——天野氏は、学生時代から町田市の障害のある人たちの社会教育活動である「青年学級」の活動に参加し、昭和59年大学卒業と同時に、「かたつむりの家共同作業所」の第一号職員になりました。天野氏は、障害のある人たちとその家族・関係者の共同で無認可作業所を設立するという町田市になかったスタイルを築き、それ以降、町田市には次々と共同作業所が誕生していきました。

また「かたつむりの家」の法人化を契機に、平成5年には「あじさい共同作業所」を開設しました。「あじさい」は、脳血管障害等により職業と社会生活の手段を失った在宅の中途障害のある人たちの働く場として開設しました。中途障害のある人たちの共同作業所は、当時は都内でも少なく町田市でははじめての試みでした。毎年入所希望が増加し、平成11年には「あ

じさい第2共同作業所」、その翌年の12年には「Cスクエアあじさい」を開設しました。この「Cスクエアあじさい」の設立は、これまでの共同作業所とは異なり、より高い工賃の保障をめざし、配達サービスにとりくみました。「Cスクエア」の事業を思い立ったきっかけは、「社会的に価値のある仕事をし、経済的に家庭を支えることで、築いてきた生きる自信のある日突然失ってしまった人たちに、もう一度『働きがいある仕事』『生きがいある人生』を取り戻してもらいたい、そのためには、『サービスの受け手から担い手に』、『生活実感につながる給与の保障』が必要」という思いからでした。「Cスクエア」は、開設後1年間で月額3万円の給与を実現し、平成15年には月額5万円を達成しました。また「Cスクエア」では企業就労への支援も重視し、トライアル雇用や企業実習にとりくみ、一般就労を実現した人たちもいます。そして天野氏は、平成16年には、「Cスクエア」の実績を基盤に、「町田市障がい者就労・生活支援センター」を開設し、共同作業所と一般企業の架け橋をつくりだす事業に着手しています。

天野氏の先駆的な活動は、多くの障害のある人たちに心強い励ましとなり、「これからの子たちは、どうなってしまうのだろう

という不安を抱える家族たちに対して、心強い勇気を与えてくれます。こうした天野氏の実績とひたむきな姿勢に対して、天野貴彦氏を「ヤマト福祉財団賞」の候補者として推薦いたします。



平成12年のパワーアップセミナーに参加して、弁当屋を始めることにしたとお話する天野さん。セミナーで学んだマーケティングの手法を取り入れて、作業所から半径500mをエリアにしぼり、工場、会社など200ヶ所をターゲットに設定。おいしさをアピールするために試食会を開始、さらに競合するコンビニ、ファミレスにない特長を出すために、豪華な容器、野菜を多めに使ったメニューを開発。現在は1日平均160食をつくり、月平均5万円の工賃を実現しています。



あまの たかひこ  
天野 貴彦さん 44歳

町田市障がい者就労・生活支援センター らいむ センター長

### 略 歴

●1960年 大阪府生まれ ●'84年法政大学経済学部経済学科卒 ●同年4月 かたつむりの家(東京都町田市)に入職。(保護者の独自運営で補助金は未交付。翌年補助金の交付を受ける) ●'93年4月 あじさい共同作業所を開設。施設長職。 ●'00年5月パワーアップセミナーに刺激を受けより高い工賃をめざすことを目的に「あじさい」3番目の施設となるCスクエアあじさいを開設。施設長職。 ●'02年年度より、月5万円の給料を実現。パワーアップセミナーの講師として、この年度より参加。 ●「町田市障がい者就労・生活支援センター らいむ」センター長・社会福祉法人ウィズ町田 理事・特定非営利活動法人 町田作業所連絡会 理事長



推薦者 富永 亜彦さん  
社会福祉法人 千代田区協議会事務局長

**推薦理由**——候補者として推薦する松村茂利さんは、知的障害者が教育の機会を等しく享受できる実践の場を求め、不登校やひきこもりを繰り返す児童と正面から向き合い、苦楽をともにできる知的障害者フリースクールでの教員の道を選ばれた。

しかし、人との信頼関係の改善ができた生徒も、フリースクール卒業後就労の道を閉ざされ、自信喪失と人間不信に再び陥るといった厳しい現実を突きつけられ、この繰り返しのむなしさをいやがうえにも味わさせられることとなった。

そこで松村さんはこの実情を打開するための最善の方策として、全く未知の世界である飲食業界での生活の道を選択することを決心したのである。そして、協働の仲間となる障害者をとめない、本物の

味を創り提供するをモットーとし、大阪に赴いてうどんづくりの訓練所で修行し、本物の技術を修めた。

平成11年、松村さんは私財を投じて都心に店舗「大阪うどん つくし」を構え、ひきこもりを繰り返す知的障害者のための就労による社会参加の場づくりに着手することになった。昨今の経済不況の中、店の経営は厳しい状況ではあるが、松村さんの並々ならぬ障害者たちの自立支援への熱意と、地域住民や在勤者ならびに当社会福祉協議会等の支援により、着実な歩みをすすめている。

知的障害者たちはこの店で働くようになってから、仕事で認められることで再び自信をとりもどし、明るい笑顔があふれるようになった。その笑顔と働くことでハンディキャップを克服していく真摯な姿などが衆人の知るところとなり、多くのマスコミ等の共感を呼び、その反響がもたらした支援の輪は、さらに広がりを見せている。

障害のある子どもが将来に希望をもち、本人、家族、地域、関係機関等が就労に向けて努力し協力しあうことができる社会の実現をめざし、労苦をともにするこれら障害者の協働生活の場づくりがさらに発展することを願い、「つくし」での就労機会を待ち望む多くの障害者の希望がかな

えられることを祈念し、松村茂利さんをヤマト福祉財団賞候補者として推薦する次第であります。



「同僚はすべて障がい者。午前担当のスタッフは、朝4時起床、仕込みのために6時30分には店に入っています。本当にかんぱり屋で頭が下がる思いです。」とおっしゃる松村さん。「今ではだし作り、うどん、天ぷらまですべて任せることができる店長候補も育ちました。彼らなくして店は回せません。」とまで言い切っています。もっと多くの障がい者が働けるように、「大阪うどん つくし」2号店、3号店をめざしています。これからも、がんばってください。



まつむら しげとし  
松村 茂利さん 36歳

大阪うどん「つくし」店長

### 略 歴

●1968年、東京都千代田区生まれ ●'90年3月 国士館大学文学部教育学科卒 ●'91年3月 横浜国立大学特殊教育特別専攻科卒 ●'91年4月 神奈川県内のフリースクールで教職に就く ●'93年3月同退職 障害者が働ける店を模索 ●'94年1月 千代田区内のうどん店で店長として勤務 ●'99年3月 知的障害者の青年と共に大阪のうどん道場に入学 ●'99年6月 千代田区一番町に大阪うどん「つくし」を開店 ●'03年1月 地元である千代田区九段北に店を移転・開店し現在に至る



# ヤマト財団賞 特別賞 受賞された方々

●本稿のプロフィールは藤井克徳氏(きょうされん常務理事)に依頼しました。



あきもと はるお  
**秋元 波留夫**先生 98歳

## 略 歴

●1906年長野県長野市生まれ●'25年旧制松本高等学校卒業●'29年東京帝国大学医学部卒業、北海道帝国大学精神医学教室助手●'35年東京府立松沢病院医員、東京帝国大学医学部副手●'37年東京帝国大学医学部講師、外来医長●'41年金沢医科大学教授●'58年東京大学医学部教授●'66年東京大学退官、国立武蔵療養所(現在国立精神神経センター)所長●'77年国立武蔵療養所退職、名誉所長●'79年東京都立松沢病院院長●'83年東京都立松沢病院退職

現 職 / 金沢医科大学客員教授、金沢大学名誉教授、日本精神衛生学会会長、日本精神保健政策学会会長、日本てんかん協会監事、社会福祉法人とさわ会理事長、社会福祉法人あけぼの福祉会理事長、社会福祉法人きょうされん理事長、きょうされん顧問

近 著 紹 介 / 精神障害者のリハビリテーションと福祉(中央法規、1999)、明るく生きてんかん(萌文社、2000)、ジャクソン著神経系の進化と解体(秋元波留夫訳、創造出版、2000)、実践精神医学講義(日本文化科学社、2002)精神医学遍歴の旅路(創造出版、2004)、刑事精神鑑定講義(創造出版、2004)他

20世紀の振幅のほぼ全域を生き抜いてきた秋元波留夫先生であるが、本年めでたく白寿を迎えた(先生は、1906(明治39)年1月29日生まれ)。的確でヒューマンズムに溢れる言動は、まるで若人の振舞いのような錯覚に陥ることさえある。

最大の業績は、わが国における精神医学、精神医療への貢献ということになる。1929年に東京帝国大学医学部を卒業し、以来75年にわたって精神科医として、その大道を歩んでこられた。東京大学医学

部教授、国立武蔵療養所(現在の国立精神・神経センター)所長、都立松沢病院院長などの要職の足跡が、そのまま業績の分厚さと広がりを物語っている。

そんな先生が、障害のある人びとのための共同作業所と出逢ったのが1970年代半ばのことであった。国立武蔵療養所所長時代に、東京都小平市に産声を上げたばかりの「あさやけ作業所」の強力なサポーターとなった。以来、共同作業所づくり運動にエネルギーを傾注することになるのである。現在は、きょうされん(旧称:共同作業所全国連絡会)顧問として、また都内の3つの社会福祉法人(あさやけ作業所、府中共同作業所、リサイクル洗びんセンターの各グループ)の理事長を務めている。おごなりの理事会運営にはことさら厳しく臨み、実質論議を重視する姿勢は一貫して変わっていない。精神科医の多くが、大学や医療機関内にもみ身を沈めがちであるのと比べて、実に稀有な存在ということになる。

先生をして、こんなキーワードで言い表

すことができる。それは「好奇心」と「正義感」である。好奇心の旺盛さは並大抵のものではない。圧巻だったのは、米寿(88歳)にしてパソコンに挑戦したことだ。今では5台を駆使し、原稿書きやeメール、インターネットにと操っている。好奇心の強さが成せる業といえよう。正義感も卓越している。あの「帝銀事件」の真相解明に深いこだわりを抱いていることはよく知られているところであり、これ以外にもいくつかの人権に関連した裁判に関与している。

先生の好物は肉料理。ちょっとしたステーキなら簡単に平らげてしまう。また、若い頃も今も睡眠時間はたっぷりとしているという。先生の快活な秘訣は、このへんに潜んでいるのかもしれない。



贈呈式で秋元先生をご紹介する岡岡氏(きょうされん理事長)



しらべ かずお  
**調 一興**さん 78歳

社会福祉法人東京コロニーおよび  
社団法人ゼンコロ 名誉会長

## 略 歴

●1926年山口県生まれ●'43年山口県長門工業学校卒業、旧海軍、民間企業、旧国鉄勤務後、結核療養を経て59年に社団法人東京コロニー協会創立とともに常務理事・事務局長。●'60年全国コロニー協会創立とともに常務理事・事務局長●'81年内閣総理大臣表彰受賞●'83年藍綬褒章受章●'89年、全社協/全国社会就労センター協議会会長●'92年、社会福祉法人東京コロニー理事長および社団法人ゼンコロ会長●'93年、日本障害者協議会代表●'94年、中央障害者施策推進協議会専門委員●'96年、IWPH(国際社会就労組織)理事●'98年、全社協/全国社会就労センター協議会顧問●'99年糸賀一雄記念賞受賞●'00年、日本障害者協議会顧問●'01年社会福祉法人東京コロニーおよび社団法人ゼンコロ名誉会長

「障害者運動のリーダー」、調一興さんにはこのフレーズが実によく似合っていた。2002年に日本障害者協議会の代表を勇退するまでの半世紀、一貫して障害者運動に身を捧げてきたのであった。鋭く本質を突きながら、それでいて人情味と楽天性を忘れない人柄は、障害当事者など仲間うちのみならず、行政関係者を含めた広い層から好感と信頼が寄せられていた。今に継がれている障害分野に関する政策課題の多くは、調さんの提唱によるものが少なくない。

そんな調さんも、最初から障害者運動を専門としてきたわけではなかった。先ず手

がけたのが、結核回復者のための働く場づくりであった。東京都中野区に「カリ版印刷業」を創設、1959年のことだった。元祖無認可作業所といえるものかもしれない。その後、結核回復者対象の働く場による全国コロニー協会(社団法人ゼンコロの前身)や全国授産施設協議会(現在の全国社会就労センター協議会)の結成に、いずれも中心的な役割を果たしてきた。調さんのモットーは、徹底した当事者中心主義にあり、障害のない人との協業と強力な生産手段(装置)を導入することであった。これによって高い生産性を実現してきたのである。また、早い段階から全ての障害を授産施設の対象とすべきであることを主張し、自らの現場においても実践してきた。今にして輝きを失わないこうした実践観は、引き続き関係者に無言のメッセージを送り続けている。

海外に視野を広げ、国際交流に力を注いできたのも調さんのもう一つの顔である。1974年以来、欧米との往復は15回余に及

ぶ。障害者政策の理念や就労政策の仕組み、所得保障制度の水準、障害の定義・認定制度のあり方等等、数々の機関資料をわが国に持ち込んだのである。アジアとの交流も怠らなかった。少くない東南アジアの研修生が、こんな話を残していった。「言葉は通じなかったけれど、日本人の中で調さんが最も印象に残った」と。人となりや端的に言い当てている。

潜水艦の乗員として迎えた終戦、昨日までが一体何であったのか、日本はどこに向かっていくのか、自分はどう生きるべきか…、若き魂を悩ませたという。人権と生命への厳格なこだわりと平和をこよなく愛する調さんの原点は、このへんにあるのかも知れない。



贈呈式で調さんをご紹介する勝又和夫氏(社団法人ゼンコロ会長)

## 次代への期待と先駆けへの感謝

小倉 昌男 財団法人ヤマト福祉財団 理事長

今年、財団賞に「Cスクエアあじさい」で障がい者の所得向上で実績をあげた天野貴彦さんと「大阪うどん つくし」を開業して障がい者の就労の場をつくった松村茂利さんの2人に決定しました。天野さんはパワーアップセミナーに受講生として参加されたあと、所得の保証が自立への近道と確信して弁当の宅配を事業化し成功されました。企業顔負けの行動計画と実行力が大きな成果を生みました。一方の松村さんはうどん屋さんという地域に身近な存在に障害者の働く姿を重ね合わせ、自ら修行しておいしい自分の店を開業されました。創業の苦労はさぞかしと思います。

今年、財団賞特別賞を秋元波留夫先生と調一興さんに差し上げることになりました。お二人とも日本の障害者福祉になくてはならない大きな功績を上げられました。先駆けとなられた方々のたどった道を知り次代を担う人たちへ引き継いでもらうことは、大事なことだと思います。今年、次代を担っていく方々と先駆けとして活躍された方々に賞を差し上げることができて嬉しく思います。





# 英会話を勉強

赤坂店

英会話で初歩的な自己紹介から、ご来店いただいた外国人のお客様への接待まで、実践的な内容が盛りだくさんの英会話教室が、お客様であるJPモルガン様の社会貢献活動の一環として開催されました。

昨年10月の毎週月曜日に日本財団会議室で、毎回、15名～20名の赤坂店スタッフが参加し、JPモルガン社様から社員の方を先生にお迎えしての開催でした。前年



JPモルガン様の指導による英会話教室

に続いて2回目ですので、受講後は外国人のお客様への対応が積極的になったようです。

スワン  
NEWS  
ア・ラ・カ・ル・ト



# 創作パン「損保ジャ・ぱん」大好評

落合店



キの生地にちくわ、ベーコン、チーズを組合せたつまみ感覚の全く新しいパンです。

昨年、12月9日・10日、

お客様のご要望により製作したオリジナルパンが大好評で、アツという間に売り切れました。落合店が開発したのは、株式会社 損害保険ジャパン様のロゴマーク入りパン、「損保ジャ・ぱん」でピロシ

ン社での出張販売で披露いたしました。たちまち長い行列ができ、用意した80個はすぐに売り切れとなりました。

# 東京都庁でも販売を開始

十条店

都庁職員の方の発案で、東京都庁の食堂でもスワンのパンが販売されることになり、十条店のスタッフが毎日、元気な声をはりあげています。都庁第一庁舎で職員食堂を運営する(株)西洋フードシステムズ様

のご好意で食堂の一角に売り場を設けて1日、130個から150個のパンを売り上げています。スワンのパンを食べたい、スワンを応援したい、という都庁職員の方々の熱い支援がこのような形で実現しました。



open!

# 全国に広がるスワンベーカリー、柏店、札幌時計台店がオープンしました。

10月30日(土)に「柏店」、12月4日(土)に「札幌時計台店」がオープンしました。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



**スワンベーカリー柏店**  
千葉県柏市東上町1-3 巳波ビル1F  
Tel.0471-62-2030  
営業時間：8:00～19:00  
(定休日/日曜日・祝日)  
最寄り駅：JR常磐線・東武野田線柏駅東口  
徒歩10分



**スワンカフェ&ベーカリー札幌時計台店**  
北海道札幌市中央区北2条西2丁目  
ダイアビルディング札幌1F  
Tel.011-221-5610  
営業時間：月～金 8:00～19:00  
土曜日 10:00～17:00 (定休日/日曜日・祝日)  
最寄り駅：JR札幌駅徒歩6分  
地下鉄南北線札幌駅徒歩5分  
地下鉄南北線大通り駅徒歩6分





「Panasonicふれあいコンサート」

## 憩いのひととき。 コンサートで

落合店

新日本フィルハーモニー交響楽団の豪華メンバーが、クラシック、映画音楽、ポップスなど1時間にわたって演奏する「Panasonicふれあいコンサート」が松下電器産業(株)

様の社会貢献活動の一環として昨年10月2日、落合店で開催されました。満席の50人のお客様は土曜日の午後の楽しいひとときを過ごすことができました。

## 秋晴れの下、オゾンも満喫 「タートルマラソン大会」全員が完走

赤坂店

障がい者と健常者の親睦と健康増進を目的とする「タートルマラソン全国大会」((社)日本タートル協会主催)が昨年10月17日(日)東京・足立区の虹の広場で開催されました。赤坂店チームは総勢

20名が揃いのユニホームで参加、体力に応じて5km徒歩、10km徒歩、5kmマラソンの3競技に参加しました。青空の下、胸一杯にオゾンを楽しみながら全員が完走して記念の金メダルをゲットしました。



ありがとう  
ございました

## バレーボール大会で チャリティ販売

銀座店

第20回「オールヤマトグループバレーボール中央大会」(ヤマトグループ各社・ヤマトグループ各労働組合・ヤマト運輸健康保険組合・共催)が昨年10月31日、さいたま市・ヤマトアリーナで開催されました。銀座店がチャリティの出張販売をおこない、その売上金12,400円をヤマト福祉財団に寄付していただきました。ありがとうございました。



## 晩秋の湘南を 周遊

十条店

十条店の社員旅行(家族含めて29名)が昨秋11月27日(土)ヤマト運輸の葉山研修センターに1泊の後、江ノ島を周遊するコースで

実施されました。葉山での相模湾に沈む夕日がとてもきれいで印象的だったそうです。

ディナーのフランス料理のフルコースや夜のカラオケも堪能し、翌日は江ノ島を巡りながら、湘南海岸のゆく秋を惜しみました。



Thank You!!

昨年末は、69,586個の  
クリスマスケーキを  
お買い上げいただきました。  
誠にありがとうございました。

株式会社スワン一岡



# 障がい者によるクロネコメール便配達

社会福祉法人 武蔵野千川福祉会

知的障がい者小規模通所授産施設 **チャレンジャー**

知的障がい者21名在籍 東京都武蔵野市

## NHK「おはよう日本」でもクロネコメール便配達で紹介されました。 ロジスティクス関連をメインに平均月給7万5千円の高収入を実現。



新堂薫 チャレンジャー施設長

昨年12月1日からクロネコメール便配達を始めた「チャレンジャー」の新堂薫施設長に、お話を伺いました。「昨年のヤマト福祉財団「ユース夏号に、沖繩『ふれあいセンター』（旧称わんからセンター）のクロネコメール便配達の記事が掲載されましたよね。障がい者福祉関係者の間でも大きな話題になりました。障がい関係の全国組織『きょうされん』『日本セルフセンター』『ゼンコ』主催によるメール便委員会が昨年10月に発足しました。私も作業部会に参加しました。もともとヤマト運輸西東京第二物流システム支店さんから、封入作業などの仕事を3年くらい前からいただいています。また、営業開拓した企業などからの発送代行を請け負って、発送をヤマト運輸さんをお願いしていることもあって、親しみのあるジャンルだったんです。記事を読んだ時から興味津々、ぜひやりたいと思っていました。配達業務を行うことによって、仕事の全体が見えてくる。封入作業を行っていたDMが、このようにして配達されるんだということを体験できます。職員にとっても利用者にとっても、非常にやりがいのある仕事です。

メール便配達を始めて2ヶ月、どのように取り組んでいるのでしょうか。「ミスが許されない仕事ですから、まず職員が覚えることが先決です。利用者と一緒に配達しています。ヤマト運



慣れた手つきで、ヤマト運輸のシール貼りの仕事をする皆さん

輸のメール便センターの方から「配達虎の巻」をいただきまして、とても助かっています。「この家は表記は個人名だけだと会社名のメール便も届くお宅だとか、注意事項を列記した資料をいただきました。仕分けがすんだら配達先を明細地図に記入、徒歩、自転車車で配達しています。配達の際に着るクロネコメール便のロゴが背中にいったユナイフォームがとってもうれしいようで、誇らしそうにしています。ウチが中心になつてもう1ヶ所の作業所でもメール便配達をしています。将来的には武蔵野の作業所4ヶ所で連携してクロネコメール便配達の仕事に本格的に取り組んでいきたいと思っています。」

平均7万5千円の高収入を実現、パワーアップセミナーでも講演をお願いしています。「昨午が平均6万円、昨午は7万5千円になりました。多い人は月12万5千円くらいになります。小倉昌男理事長が、障がい者の月給1万円以下でいいのかと問題提起されたことにも感謝



明細地図に配達先をマーカーで印をつけてから出発



クロネコメール便のユニフォームがとても似合っています、配達前の鈴木真理さん



しています。障がい者を働かしてばかりいるかわいそうだ、けしからん作業所だと非難されることもあったんですが、小倉昌男理事長が正論を言っていたのでおかげで、世の中の風向きが変わってきました。毎年給与から積み立てて年1回社員旅行に行っています。昨午は白神山地に2泊3日でハイキングをかねて行ってきました。みんなお小遣いをいっぱい持って、おみやげをたくさん買って帰ります。」

端末入力専門のオペレーターがパソコンに向かい手慣れた手つきで入力、作業場には結束機が置いてあったり、共同作業所というより、ロジスティクス会社と言った方がピッタリの東京武蔵野「チャレンジャー」。メール便配達の仕事を請け負うことによって、仕事の全体像が見えてくる、その意義は大きいとお話していました。今まで以上の事業の発展、高賃金をめざして、がんばってください。



## 有限会社 ヴィ王子

中途障がい者2名在籍 東京都北区



徒歩でメール便配達をする小林ノリコさん

昨年8月23日からメール便配達を始めた有限会社ヴィ王子 小島靖子 取締役にお話を伺いました。「中途障がい者は高齢の方が多くリストラにあったり、障がいをカバーするために無理をして体をこわして仕事を辞めざるをえなくなることが多い。左手が不自由な中途障がい者の方と話をしていたら『歩けるし右手も使える、ポスティングのような仕事だったら、自分でもできる』とおっしゃるんです。沖縄『ふれあいセンター』（旧称わんからセンター）の永山さんの障がい者によるクロネコメール便配達の講演を聞いて、これだと思いました。」

クロネコメール便配達を終えたばかりの宇賀神廣行さんにお話を伺いました。「30年位前から原因不明なんですけど右手の握力が低下してきて、以前努めていた製本関係の仕事で腰も痛めて、仕事ができなくなりました。メール便配達の仕事ができるようになって、本当に感謝しています。雨の日は、メール便や端末が濡れないように注意しています。」

お子さんもスワンベーカーリー十条店で働いているという小林ノリコさんは、聴力障がいでも補聴器を使っています。「病院の掃除をしていて定年退職したんですが、年令、障がいの問題もあって、なかなか再就職できなかつたんです。そんな時、小島先生に声をかけていただいて、昨年の10月14日から働いています。」

再就職が困難な中途障がい者の仕事として、クロネコメール便配達に取り組んでいる有限会社ヴィ王子の新しい試みは、始まったばかりです。



配達から帰ってきたばかりの宇賀神廣行さん

## 志木精神障害者を支える会 カナリア工房

精神障がい者23名在籍 埼玉県志木市



徒歩で配達する利用者、誤配・ミスは一度もないとのこと。

## 昨年6月23日から、クロネコメール便配達をスタート。 今では事業の3本柱の一つに成長しています。

木工品などの製造販売、スワンネットの野菜販売、クロネコメール便配達を事業の柱にしているカナリア工房は、埼玉県志木市の閑静な住宅街にあります。全家連（全国精神障害者家族連合会）が発行しているREVIEWという雑誌で、沖縄ふれあいセンター（旧称わんからセンター）の記事を読んでメール便配達のことを知ったという、小川憲司事務局長にお話を伺いました。「定期的、安定した仕事であること、最初はたいへんかもしれないけれど慣れば利用者中心にできるということに魅力を感じて、ぜひ取り組みたいと思いました。埼玉主管支店のメール便課長には、たいへん感謝しています。私たちの話を聞いて、できることできないことをはっきりさせて、利用者中心にやっていくにはどうしたらいいのかレクチャーしていただきました。まずは配達エリア全体の把握、1日10冊からスタートして、20、30冊と増やして、1ヶ月かけてエリア全体を担当するようにしました。今では平均で1日60冊、多い日で200冊近くになります。5名くらいでローテーションを組んで配達しています。メール便センターからのデリバリーがネックになっていんですが、宅急便のドライバーの方に持ってきてもらうことによって、解決できました。ほんとうに何から何までお世話になりました。」

従来は製造だけだったのが、スワンネットの野菜販売、クロネコメール便配達と違うジャンルの仕事が増えることによって、外に出て地域の人と接触する機会が増えました。社会参加を実感してがんばっています。



配達前の仕分けをする利用者



# 障害種別ごとに活動していた団体が大同団結し、 日本障害者フォーラム(JDF)が新しく誕生 大きな期待をあつめています。



政府とJDFの合同セミナー(ニューヨーク)

## 障害者権利条約と 日本障害者フォーラム(JDF)

いま、国連では障害者の権利条約の制定の動きが急ピッチで進んでいます。この条約が制定され、国連加盟各国が批准すると、その国の憲法の次の優先順位でその条約を履行する義務が生じます。つまり先進国も途上国もすべて障害者の権利をかさあげする絶好の機会であり不十分な条約では真の障害者のための権利条約として機能しなくなってしまうです。そこで当事者の声を反映させるため、日本を代表する障害者のためのNGO(非政府組織)として結成されたのが日本障害者フォーラム(JDF)です。

## 24年ぶりに正式発足した画期的NGO

1981年の国際障害者年に向けて当時、日本の障害者団体が結集しようという努力がなされました。しかし、すべての障害者関係団体が集まるには至らず、実に24年ぶりに昨年10月31日に正式発足しました。今後は日本障害者フォーラムが日本の障害者施策の推進と障害のある人の権利を推進するための核となっていく予定です。

## 中長期にわたる 日本障害者フォーラムへの期待

ヤマト福祉財団では、毎年、福祉助成金として最高100万円を限度に全国の130箇所あまりの作業所や施設に助成をおこなっていますが、これは直接的支援として感謝されています。この日本障害者フォーラムに対する支援は、権利条約に障害者の意見をより多く盛り込み、中長期的に世界の障害者の権利向上を実現する道筋をつける役割をはたすとともに、苦難のすえに実現した日本の障害者団体の大同団結を支える大きな力となります。

## ヤマト福祉財団の行なう支援

日本障害者フォーラムでは4つの専門委員会を設置して活動しますが、国連派遣団の費用や各地での啓発のためのシンポジウムなど費用が必要となるため、ヤマト福祉財団では、初年度150万円、次年度以降毎年200万円を複数年に渡り提供して支援する予定です。

### swan net information

# スワン ネット

## 知的障がい者通所授産施設 **はすね福祉作業所**

知的障がい者19名在籍 東京都板橋区

高島平通りに面した庭先でジャガイモ、タマネギを販売。  
「味で勝負!」近所の大手スーパーにも負けません。



スワンネットの野菜販売を始めて2年、多い月で500kg少ない月で300kg。毎月コンスタントに売上げています。ジャガイモ、タマネギだけは、スーパーに立ち寄る前に買ってくださいというお客さまも結構いらっしゃるか。おいしいと評判になって、しっかり固定客がついています。ポイントカード付きの値札をつけて、20枚集めると1袋と交換できる「はすね福祉作業所」オリジナルの販売促進策も固定客作りに一役買っているようです。小売り以外では、高齢者在宅サービスセンター、障がい者生活寮にも卸しています。スワンネットのトイレットペーパーも扱っています。

利用者は袋詰めも販売も行っています。販売は一人あるいは二人で組み日替わりで担当します。知的障がい者を隔離するような時代ではなく、地域の人たちに積極的に知っていただく、成人の障がい者は決して特別な存在ではないということを理解していただくという考えから、販売を通して接する場を設けたとのこと。最初は尻込みしていた人も積極的に呼び込みまでするようになり、近所の奥さんとも顔なじみになりました。他の

ことにも前向きに取り組むようになったそうです。スワンネットの野菜販売を通しての地域社会との接触は、障がい者にもはつきりプラス効果があります。

詳しいお問い合わせは

〒104-0061 東京都中央区銀座2-12-15 ヤマト運輸別館8F 株式会社スワンネット 営業部長 門脇 悠  
Tel. 03-5148-1066 Fax. 03-5148-1067 e-mail : kadowaki@swannet.jp



職場  
めぐり

ヤマトロジスティクス株式会社

札幌ロジセンター

がんばって  
ますか!

障がい者の  
職場めぐり

知的障がい者11名が、棚入れ、ピッキング、梱包、検品、メール封入作業、仕分け、フォークリフトの運転、職場の清掃に、健常者と全く同じ仕事をしています。

会社紹介

「顧客企業の販売戦略支援を使命とし、創造的なロジスティクスサービスの提供とトータルコスト低減を通じて、顧客企業の発展に貢献する」ことを基本方針としています。

メール便バーコード貼り、ピッキング、キャットワーク作業2300アイテム、パソコンでのラベル作り、梱包、その他 車両のホイール(軽自動車から大型車)の保管出庫。健康食品、化粧品、医薬品、販促品、雑貨品の保管出庫

●総社員数58名 ●障がい者社員数11名



安全第一、堅実な仕事ぶりが評判の佐藤満広さん

フォークリフトの免許は現在2名取得しています。代表して佐藤満広さんにお話を伺いました。「昨年免許を取得しました。危険が伴う運転なので必ず、安全喚呼を実施しています。薬品会社を担当しています。一番気をつけていることは、商品を間違えないようにすること、そのために二つ

つしっかり確認しています。仕事の種類が多いので、今の仕事に満足することなく、他の仕事にもどんどん挑戦したいと思っています。」



体力には自信あり、将来の夢は車通勤という田島佳和さん



職場で一番の記憶力を仕事に活かす相内量基さん

マークの宅急便の会社でした。制服にもマークがついていて感動しました。ぜひ働きたいと思いました。仕事をしている時はとても充実感があります。失敗すると悩む方なので、集中力を持って仕事をして、1日1日を大切にしながらがんばっています。趣味はダイビングです。きれいな海で魚が泳ぐのを見ると心が癒されます。将来はパソコンを習って視野を広げていきたいです。」



趣味はきれいな海でのダイビングという服部龍弘さん

を痛めないように注意して、毎日の仕事をがんばっています。将来は車の免許を取得して車通勤したいと思っています。」

抜群の記憶力を仕事に活かしている相内量基さんは「文房具のピッキングと梱包作業を担当しています。2300アイテムの商品が、どの棚にあるのかすべて覚えていきます。入社以来、毎日必死で覚えめました。これだけは、健常者を含めて職場の誰にも負けません。いまは仕事がとても面白くなってきました。趣味は料理を作ることです。得意な料理は、チャーハンとカレーです。材料もマーケットに行き、結構本格的にやっています。」

資格、体力、能力を最大限に発揮して、職場の重要な戦力になっている札幌ロジセンターの皆さん、これからも仕事に素敵な趣味ががんばってください。





# いつも、ありがとう 北の大地のめぐみ 「おいしい、ジャガイモ」



玉手博章さん

北海道の豊かな大地で  
収穫されたジャガイモ4.5トンが  
今年も玉手農場の代表、玉手博章様(北海道虹田郡留寿都村豊岡)の  
ご好意によりヤマト福祉財団に寄付をいただきました。  
一昨年、昨年に続いてのもので、本当にうれしい、ありがたいことです。  
財団では、きょうされん、スワンネットを通して、各地の施設にお届けをしました。



## 作業所から感謝のメッセージ

### みんななかま共同作業所

心身障がい者・精神障がい者・知的障がい者 14名 京都府城陽市

早速カレーライスにして、みんないただきました。毎週月曜日は給食の日です。しばらくはジャガイモの日が続きそう、新鮮でとてもおいしく喜んでます。ありがとうございました。



### 社会福祉法人 宇治市社会福祉協議会 宇治共同作業所

身体障がい者・知的障がい者 34名 京都府宇治市

ジャガイモが配達された時、みんなで大喜びしました。給食はもちろん、おやつ作りに役立てたいと思います。「北海道からのおいしいプレゼント」ほんとうにありがとうございました。



## 平成17年度 障がい者福祉助成金申込み募集についてのご案内

本年度3月1日より全国にある障害者施設を中心に公募の受付を開始いたします。  
助成対象は、心身に障がいのある大学生に対する奨学金の供与・障がい者団体への助成となります。  
「助成金申請書」用紙につきましては、財団ホームページより下記のアドレスにて取り出しができます。また、財団本部事務局へメール、電話、FAXにてお問い合わせ頂ければ郵送でお送り致します。

財団法人ヤマト福祉財団 TEL 03-3248-0691 FAX 03-3542-5165  
ホームページ <http://www.yamatofukushizaidan.or.jp> Eメール [y.zaidan@yamato-fukushizaidan.or.jp](mailto:y.zaidan@yamato-fukushizaidan.or.jp)

### ヤマト福祉財団全国支部連絡先(ヤマト運輸(株)内)

| 支部    | 事務長  | 連絡先              |
|-------|------|------------------|
| 北海道支部 | 加藤房男 | TEL.011-891-5040 |
| 東北支部  | 平井 忠 | TEL.022-374-8065 |
| 東京支部  | 窪寺敏幸 | TEL.03-5564-3705 |
| 関東支部  | 安田 稔 | TEL.03-3471-9016 |
| 北信越支部 | 加藤泰男 | TEL.025-231-9512 |
| 中部支部  | 内田竜吾 | TEL.0561-61-5111 |

| 支部   | 事務長  | 連絡先              |
|------|------|------------------|
| 関西支部 | 富川宣臣 | TEL.06-6682-7127 |
| 中国支部 | 竹下憲雄 | TEL.082-849-1451 |
| 四国支部 | 柳島憲行 | TEL.0877-46-7875 |
| 九州支部 | 目野和彦 | TEL.092-931-3340 |
| 沖縄支部 | 六笠保裕 | TEL.098-859-2811 |

賛助会員 個人49,170人 法人34社(2004年9月30日現在)

古紙配合率100%の再生紙とアメリカ大豆協会認定の大豆油インクを使用しています。

